

第50回飛鳥史学文学講座—やまと・あすか・まほろば塾—

【場 所】 明日香村中央公民館

| 講 | 開 講 日 | 所 属 | 講師(敬称略) | 演 題 |
|------|-----------|---|---------|--|
| 第1講 | 4月14日(日) | 関西大学名誉教授 | 米田 文孝 | 蘇我氏四代の野望と挫折 —墳墓に反映された 飛鳥時代前期の権力抗争— |
| 第2講 | 5月12日(日) | 関西大学文学部教授 | 乾 善彦 | 古代人と文字 —漢字への憧憬と畏怖— |
| 特別講 | 6月 9日(日) | 明日香村教育委員会 文化財課課長補佐・ 関西大学非常勤講師 | 西光 慎治 | 飛鳥の仏たち川原寺と川原寺裏山遺跡 —川原寺裏山遺跡発掘50周年— |
| 第3講 | | 作家・関西大学客員教授 | 玉岡 かおる | 皇王のしるし・神剣の系譜 |
| 第4講 | 7月14日(日) | 関西大学非常勤講師 | 今尾 文昭 | 「祖」の伝承・成立と古墳 —ウジ系譜に考古学で挑む— |
| 第5講 | 8月 4日(日) | 関西大学文学部教授 | 井上 主税 | 渡来人とかかわる考古資料から 蘇我氏を考える |
| 第6講 | 9月 8日(日) | 関西大学副学長・文学部教授 | 藤田 高夫 | 「木」から「紙」へ —古代漢字文化の諸相(四)— |
| 第7講 | 10月13日(日) | 関西大学文学部教授 | 長谷 洋一 | 『国華余芳』の世界 —お雇い外国人が見た正倉院宝物— |
| 第8講 | 11月10日(日) | 関西大学文学部教授 | 西本 昌弘 | 難波地域の古代史 —高津宮・堀江・難波津・大郡— |
| 第9講 | 12月 8日(日) | 関西大学客員教授 | 徳田 誠志 | 「近つ飛鳥」と「遠つ飛鳥」の陵墓 —「古墳」の終焉と 「日本」の始まり・第2章— |
| 第10講 | 1月19日(日) | 関西大学文学部教授 | 村田 右富実 | 歌から見る持統朝 —石見相聞歌— |
| 特別講 | 2月 9日(日) | 天王寺楽所雅亮会理事長・ (一社)雅楽協会代表理事・ 関西大学前客員教授 関西大学非常勤講師 | 小野 真龍 | 明治期の天王寺楽所の変動 —雅亮会への天王寺舞楽の継承— |
| 第11講 | | 明日香村村長・ 関西大学客員教授 | 森川 裕一 | 「飛鳥・藤原」の世界遺産登録 —石の都、水の都飛鳥京現る— |
| 第12講 | 3月 2日(日) | 関西大学文学部教授 | 黒田 一充 | 御田植祭りの人形 |

短歌

- ・ 葉草を摘み来て服用しておりぬ症状防ぐ思い湧きつつ 森本 博文
- ・ 今世にはお会い出来なき先生も今日夢の中吾家に来られし 西村 道子
- ・ 霜月に気高く咲ける皇帝ダリア吾もそのように凜とありたし 森田 幸子
- ・ 霜厚きすすきかぶれり白帽子明日香の里はひとひ静寂 吉田 清子
- ・ 体調を崩し癒ゆれば春立ちて庭の万両赤あかと照る 脇田 智子
- ・ 居住まいを糺し咲き初む侘助の二りんばかりに呼びとめられて 奥 まさみ
- ・ 初日の出犬の散歩を思い出す雪道かき分け白銀の丘 森本 武志
- ・ 迎春のわが老いさびし蠟梅の透けし花びら優しいかおり 藤川 幹代
- ・ 「落とさへん」大口叩きヒアス無い金剛おろしの刈田を探す 森本 千鶴子
- ・ わあヤッター大谷選手のグローブに輝ける頬未来明るし 井本 智子
- ・ 真つ新たなページに記す「頑張るぞ」少し厚めの十年日記 豊田 絹代
- ・ 甘櫻のくぬぎ葉散りて枯れ葉道ふわふわサクサク昼の麗し 山本 修
- ・ 蜜柑つみおえ帰りゆく金剛に夕日の沈むお疲れさまと 松本 義夫
- ・ 茅刈りてあかぎれ指の父偲ぶ夕日に映える茅のこえして 尾関 常子
- ・ 骨納めお骨を抱けばカラカラと別れを惜しむ夫のささやき 上中 幾代
- ・ 久々の同期の友の年賀状記憶一気に青春時代へ 脇本 雅子
- ・ 空高く龍眼もちらて舞い昇れ明日香の空は世界の仲間 勝川 京子
- ・ しんとして冷気をまどう檜前の杜のもちの木春告げる赤 友田 昌子
- ・ 吉野線最後尾車両単線乃直線曲線我人生也 田中 祥子
- ・ 朝霜に咲く水仙よ何思ふ阪神震災二十九年経つ 米田 郁夫
- ・ 自らに由つて生きんと願ふ時アラムひびく能登地震とぞ 米田 靖子

シリーズ